

菟田野小だより「桜梅桃李」

No.18

令和4年 11月9日(水)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

お話の会

11月7日(月)にお話の会のみなさんが本の読み聞かせに来校してくれました。

今回も季節や子どもたちの学年に合わせて、いろいろなジャンルの本を準備してくださいました。低学年には手遊びも用意するなど、いつも飽きさせない工夫もしてくださっています。ありがとうございます。

今日で全国読書週間が終わりになります。今年の標語は「この一冊に、ありがとう」です。読み聞かせを通して「読書の秋」がいっそう深まるといいなと思います。



「おかえり！」卒業生が職場体験

11月1日と2日に、菟田野中学校の2年生4名が職場体験に来ました。

問題を解いている児童への手助けや本の読み聞かせ、算数プリントのマル打ちをするなど授業の補助的な役割をしました。また、児童玄関で朝のあいさつ運動をし、休み時間にはいっしょに遊び、給食の配膳も行い、授業以外の時間も子どもと関わっていました。特に低学年の子は大喜びで、中学生の両手は常に誰かの手でふさがっていました。



将来教員志望の生徒もいて、小学生中学生ともとても有意義な2日間になったと思います。

君の名は② 答え 紫苑 (シオン)

- キク科で10月ごろ開花
- 花言葉は「君を忘れない」



思うこと⑥ 無限の可能性を信じ抜く

先月都内の教育セミナーで、小学校校長の市川由紀絵さんが「子どもの心を育てる」テーマで講演されていました。その内容を紹介します。



<3年生の作品>

我が家には、3人の子どもがいます。長男が中学1年の時、同級生からの暴力がきっかけで不登校になりました。この時の私は「息子よ、強くなれ!強くなれ!」とっていました。

しかし、それではいけないことに気づかされました。ある時、夫が「君のいいところは、その優しさだ。その優しいところをずっと大事にしてほしい。君は変わらなくていい。君は、君のままでいいんだよ」と語りかけたところ、長男は大粒の涙をこぼしながら、その言葉を聞いていたのです。長男を変えようとするのではなく、変わるべきは親である私の一念でした。

それ以来、長男の状態は少しずつ改善。生き生きと学校生活を送れるようになっていきました。進路も自分で決め、勉強に挑戦。志望大学の合格を勝ち取ることができたのです。

「桜梅桃李」との言葉が示す通り、その人にしかない良さや使命が必ずあります。子どもがいかなる姿を示そうとも、無限の可能性を信じ抜き、励まし続けることが親や教員、周囲の大人には必要なのだと実感しました。

一時期、子どもが揺れ動いたとしても心配ありません。「あなたにはこんなたくさんの素敵どころがあるんだよ」と



<2年生の作品>

温かく抱擁する思いで、使命深き大切な我が子に励ましを送っていきたいと思います。